

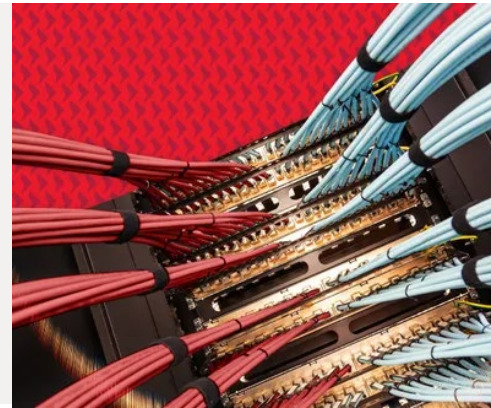
invested in insights.

eastspring
investments

A Prudential plc (UK) company



アジアに広がるAIの投資機会 期待と実態のギャップを読み解く



ポイント

- ▶ 人口知能（AI）がアジアにおいて構造的な成長ドライバーとして存在感を高めつつある背景には、データセンターの拡張と、テクノロジー関連のハードウェア供給におけるアジアの主導的な役割があります。
- ▶ アジアにおけるAI関連投資の次の局面では、表面的な高成長というよりも、AI関連支出によって生み出されるキャッシュフローとリターンの持続性が、より重要な論点になっていくとみています。
- ▶ AI関連投資は特定の投資スタイルだけに有利に働くものではなく、AIを実際に収益化できる企業を見極められるかどうか、運用成果を左右する鍵になると考えています。
- ▶ このようにAIは、アジアにとってますます重要な構造的要因になりつつあります。

アジア地域の輸出競争力は現在、AI関連需要によって下支えられ、とりわけAIインフラ、半導体、テクノロジー関連のサプライチェーンにおいて、その傾向が鮮明になっています。とりわけデータセンターおよび関連インフラへの投資規模は非常に巨額なものとなっています。アジアは、テクノロジー・ハードウェアの主要な供給地域であると同時に、データセンターの拡張という観点でも、世界で2番目に高い成長が見込まれる地域となっています。

もっとも、アジア全域でAI関連のデータセンターの拡張を進めるうえで、主な制約要因となりつつあるのは電力供給です。効率的な規模の拡大は、電力の確保状況、送配電網の信頼性、エネルギーミックス、および政策遂行能力により、ますます大きく左右されるようになっていきます。これらの要素は、アジアの各市場の違いを見極めるうえで、重要なポイントになりつつあると考えられます。

こうした環境を踏まえると、アジアにおけるAI関連投資には選別的なアプローチが必要であると考えられます。エネルギー価格の上昇が続く中、AI関連投資の拡大の流れは継続する可能性が高く、その投資サイクルを支える企業群が相対的に注目される局面にあります。もっとも、最終的な評価を左右するのは、実際に利益成長に結びついているかどうかです。市場の関心が、AI関連支出によって生み出されるキャッシュフローとリターンの持続性へと移りつつある中、収益面での裏付けが一段と重要になっていくと考えられます。

英国ブルーデンシャル社は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。

最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルーデンシャル・ファイナンシャル社、および英国のM&G社の子会社であるブルーデンシャル・アシュアランス社とは関係がありません。

※ご留意いただきたい事項を最終ページに記載しております。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

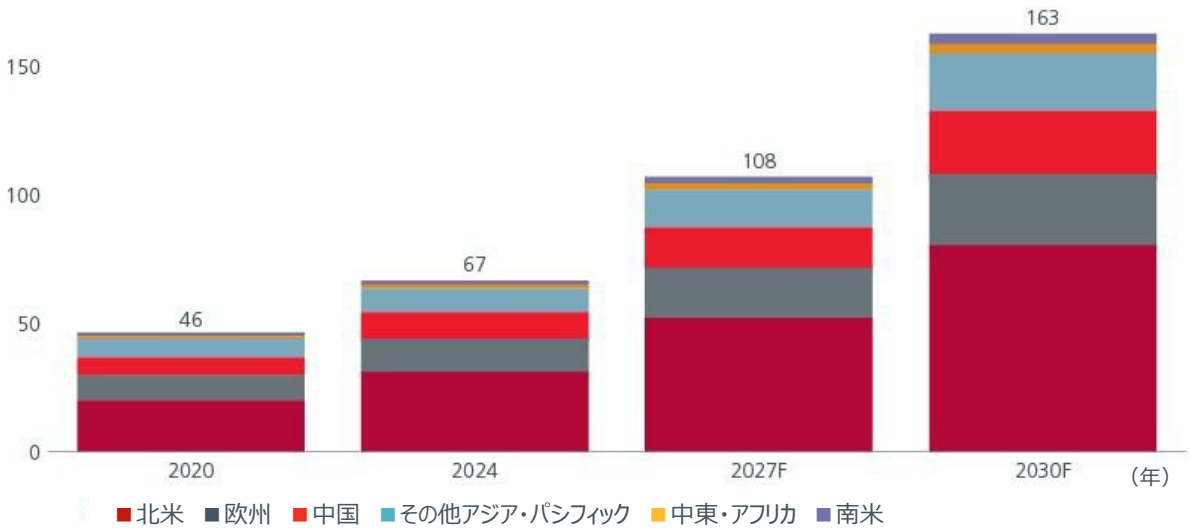
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第379号／加入協会 一般社団法人資産運用業協会

260610(02)

invested in insights.

図表1：中国がアジアにおけるデータセンターの成長を主導

世界のデータセンター容量（地域別、ギガワット）



出所：ベイン・データセンター・モデル（2025年）のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）作成。*セクター成長のベースライン・シナリオを前提に試算、数値は四捨五入。2027年および2030年は予測値。

図表2：AI関連のデータセンターにおける潜在的な電力供給対応能力

カテゴリー	市場	主な評価ポイント
市場をけん引するリーダー	中国	突出した競争優位を有する市場（明確なリーダー）
	日本	世界最高水準の信頼性を有するが、高電力コストが収益性の重石
	韓国	高い信頼性を有するが、供給余力（キャパシティ）の逼迫リスクが存在
条件付き有望国	マレーシア	データセンター市場は急成長するも、電力・水資源制約がボトルネック
	インド	中国に次ぐ巨大市場（AIユーザー約7億人）だが、電力インフラ品質および水不足が制約要因
	タイ	域内では電力インフラが相対的に安定するも、新規供給なしでは需要拡大は持続困難
構造的制約により成長に限界	シンガポール	データセンター集積地からハブ機能への役割転換が進行
	インドネシア	電力コストは低廉な一方、群島構造に起因する送電網の分断が制約
インフラ制約が大きく投資効率が低い市場	ベトナム	夏季停電や送電網の脆弱性、水力依存による季節変動リスクが顕在化
	フィリピン	東南アジアで2番目に高い電力コストに加え、頻繁な停電および台風リスクに晒される電力網

出所：IEA「Energy & AI 2025」、Wood Mackenzie、Deloitte APAC 2026、Ember、IEEFA、Introl/BofA、PwC APAC「Clean Energy Gap」、SemiAnalysisのデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）作成。

invested in insights.

アジアにおけるAI関連への投資機会をどのように捉えているのか、サンディーブ・ビハニ（アジア・バリューストックチーム ポートフォリオ・マネジャー）、ジョン・ツァイ（グロース株式運用責任者）、クリスティーナ・ウーン（インカム株式運用責任者）とのQ&Aでは、それぞれの投資スタイルに基づく視点が示されています。

Q1. AIへの投資機会は、AIを開発する企業とAIを活用する企業のどちらにあるのでしょうか。

サンディーブ：AIを開発する企業とAIを活用する企業のどちらを選ぶべきかという単純な話ではありません。AIによって付加価値が高まり、コスト低減が可能となる持続性のある事業に着目し、バリュートラップを回避することが重要です。過度な期待先行ではなく、AIの活用によって効率性が高まっている資本財、金融、旅行といった分野に注目しています。

ジョン：グロース投資の観点からは、成長のスピードと規模がなお過小評価されている領域に、最も魅力的なAIへの投資機会があるとみています。特に韓国や台湾では、需要が想定を上回ったことで成長見通しを上方修正しなければならなかったケースが散見されました。

クリスティーナ：インカム志向の投資家にとってAIが意味を持つのは、増収、安定したキャッシュフロー、そして長期的なインカムの安定性に結び付く場合に限られます。特に、内部キャッシュフローを原資としてAI投資を賄うことができる企業は、バランスシートの健全性を維持しながら、持続的にインカム創出を支える点で有望と考えます。

Q2. 投資家は、AIに関する過度な期待と実際の業績寄与をどのように見分ければよいのでしょうか。

サンディーブ：明確な警戒サインの一つとして、市場がすでに何年分もの超過収益を織り込んでいるような過熱しているケースが挙げられます。テーマ先行の投資を避け、過去の景気循環を乗り越えて、規律をもって新たな技術を取り入れてきた実績のある企業に注目すべきと考えます。

クリスティーナ：企業がAI関連の設備投資拡大を語りながらも、それをどのように収益化するのか、売上高、効率性、キャッシュフローにどうつなげるのかについて明確な道筋を示していない場合、それはAIに対する過度な期待の表れと見ることができます。

ジョン：一部の企業が競争に出遅れることへの懸念から、半ば防衛的にAI主導の設備投資競争に参加しています。そのため、ストーリーに流されるのではなく、最終的には数字に基づいて判断する姿勢が不可欠です。

Q3. AIによって企業価値を毀損するリスクが高まりやすいのは、どのようなビジネスモデルでしょうか。

サンディーブ：多額の固定資産投資を必要としながら、AIによる急速な代替リスクにさらされる事業モデルは、とりわけ脆弱であるとみています。だからこそ、勝ち残る企業を見極めるためにはアクティブ運用のアプローチが重要であると考えます。

ジョン：AIが競争環境の変化を一段と加速させる可能性があります。技術革新のスピードが従来のテクノロジーサイクル以上に早く、勝者が短期間で入れ替わり、既存企業の優位性が投資家の想定以上に早く失われる可能性があるかとみています。

Q4. 運用プロセスにAIツールを取り入れていますか？

クリスティーナ：AIは主にリサーチ業務の生産性向上に活用しています。情報処理のスピードを高め、重要なリスクをより早い段階で把握するための手段として位置付けており、判断や意思決定そのものを置き換えるものではありません。

サンディーブ：チームとしてはAIを主に銘柄選択ではなくリスク管理ツールとして活用しています。今後3～5年の間に、ある事業が陳腐化する可能性があるかどうかをストレステストし、その知見をバリュエーションの算出や利益の平準化に反映させています。

ジョン：従来型のセルサイド・リサーチの差別化が難しくなる中で、AIは社内の企業分析の効率を高め、より幅広い試行を可能にする手段になるとみています。

invested in insights.

Q5. 投資家にとっての重要なポイントは何でしょうか？

ジョン：グロース投資家にとっての課題は、すでにAIを収益化している企業と、回収の不確実性を伴う企業とを見極めることです。AI関連予算の拡大と急速なインフラ整備は選別的な投資アプローチを後押しする一方で、とりわけ米国における収益成長の加速により、適正なバリュエーションを判断しづらくなっています。

サンディーブ：バリュー投資の観点からは、AIは効率性の向上やコスト削減、顧客価値の強化を通じて、低成長企業や景気敏感企業の収益の成長速度を変化させるテーマといえます。アジアではAIに対する期待が依然として比較的慎重であり、投資においては適正なバリュエーションの維持や安全マージンの確保、持続的なリターンが引き続き重視されています。

クリスティーナ：インカム投資家にとっての大きな誤解の一つは、AIは資本支出の負担が大きいため、投資テーマとしての関連性が低いと考えられている点です。しかし、アジアの多くの企業、とりわけAI関連の設備投資拡大の恩恵を受ける企業は、売上の増加やキャッシュ創出力の向上を通じて、AIの恩恵を享受しており、その結果として配当の増加にもつながっています。アクティブな銘柄選択を通じて適切な企業を見極めることが重要であると考えます。

<当資料に関してご留意いただきたい事項>

○当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）が作成した資料をもとに、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。○当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。○当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。○当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。○当資料では、個別企業や業種・テーマに言及することがありますが、当該企業の株式／債券や業種・テーマについて組入の保証や売買の推奨をするものではありません。○当社による事前の書面による同意無く、当資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。○抄訳には正確性を期していますが、必ずしもその完全性を担保するものではありません。また、必ずしも原資料の趣旨をすべて反映した内容になっていない場合があります。